

# 地域内外の人と対話を重ねることで生まれる熱 地域ビジョンとマンダラづくりでできること

## 2024年 環境省ローカルSDGs 地域循環共生圏セミナー 第3回講演編 開催レポート

環境省では、地域の環境・経済・社会を元気にしたいと考える人たちが、一步を踏み出す「きっかけ」や「学び」を得るためのセミナー「環境省ローカルSDGs 地域循環共生圏セミナー」を開催しています。

第3回講演編では、やめスマ研究所所長の宮崎 悠輔さんをお招きし、『地域の未来を描き、行動するための「地域ビジョン」と「マンダラ」』をテーマにお話いただきました。

その内容をレポートします。

### 宮崎 悠輔 さん (みやざき・ゆうすけ) さん プロフィール

- 1991年佐賀県武雄市生まれ
- 大学卒業後は大手通信会社に従事し、2018年株式会社アズマへの転職をきっかけに八女へ移住
- 令和4年度より環境省が行う、「地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」への採択をきっかけにやめスマ研究所を立ち上げ、地域での対話の場づくりを行うため地域内でワークショップやMTG及びイベントの企画、開催を行う

## 「強い田舎を創りたい」という思いから始まった、エネルギーの地域内循環を促進する事業

宮崎：やめスマ研究所についてご紹介する前に、やめスマ研究所が所属する株式会社アズマについてご紹介をさせていただきます。

株式会社アズマは、福岡県八女市を拠点に地元密着で太陽光発電事業と建築板金業を中心に事業を行っています。自立的で持続可能な地域づくりに向けて、太陽光発電事業を通してエネルギーの地域内循環の促進をしたいと考えています。弊社の代表にお孫さんが生まれたことが一つのきっかけになり、「強い田舎を創りたい」というビジョンが生まれました。

2016年度時点で、八女市の年間消費電力は2億7000万kWh。金額にして年間53億円が八女市から域外の電力会社に支払われている状況でした。

電気という生活に欠かせないものを利用するために、域外に地域資金が流出する状況を改善するために、エネルギーの地域内循環の促進を目指して2017年に設立されたのが やめエネルギー株式会社です。弊社の代表が発起人となり、地元企業73社から出資を募りました。

やめエネルギー株式会社は、LED'S（ローカルエネルギーダイレクトサプライ）という、太陽光発電設置事業を推進しています。LED'Sは、初期費用なしで太陽光発電設備を設置でき、そこで発電した再生可能エネルギーを利用できるサービスです。また、無償設置した太陽光パネルに蓄電池をセットで提供することで、災害時の電源確保にも繋がっています。2023年の1月末時点で116件、容量としては1.4MWの太陽光発電を設置しています。この取り組みは、環境省の「第8回グッドライフアワード実行委員会 特別賞」を受賞しています。

## 地域にあるたくさんの課題を解決するために始めた、地域循環共生圏づくり

宮崎：こうした背景がある中で、地域循環共生圏づくりに取り組み始めたのは、エネルギーだけで解決できることは限定的であるという課題意識からです。

地域には、たくさんの課題があります。たくさんの課題を解決するためには、地域内外の多くの人とパートナーシップを結び、対話をしながら前に進み、課題解決をするための事業を生み出し続ける必要があります。ですが、地域循環共生圏づくりに取り組み始める前に、私たちには地域づくりを一緒に進めていける仲間とのネットワークはありませんでした。

こうした課題意識を持っていたところ、Facebookで環境省の地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業を仲間が発見し、応募するに至りました。当初は、株式会社アズマとして地域循環共生圏づくりの活動を始めましたが、より中立的な立場で八女のことを考えられるようにという思いで、やめスマ研究所を設立しました。

実は、僕はこの時点では一般的なサラリーマンとして働いていて、申請書を書いたから巻き込まれてしまったというのが正直なところです。ですが、活動を通して徐々に気持ちが変わっていき、今はこうして所長として皆さんにお話しをしています。

## より多くの地域課題を解決するために始めた地域循環共生圏プラットフォーム構築と、1年目のマンダラづくり

宮崎：やめスマ研究所の1年目の活動は、地域の未来を考えるきっかけ作りのための計9回のワークショップの開催でした。SDGsをテーマにしたカードゲームやコミュニケーショングラフィックを活用したワークショップを行い、地域から約300名の人たちが参加しました。たくさんの思い出がありますが、特に印象的だったのは、市役所が工事中だった際に、工事看板を利用して成果物を展示したことです。

こうしたワークショップを始める前は、八女の人たちは地域に対してあまりポジティブなイメージを持っていないのではないかと感じていました。しかし、ワークショップを通して「八女のことが好き」「八女には自然や伝統が豊かに残っている」という住民の声を沢山聞き、地域の価値を見直す一つのきっかけになりました。

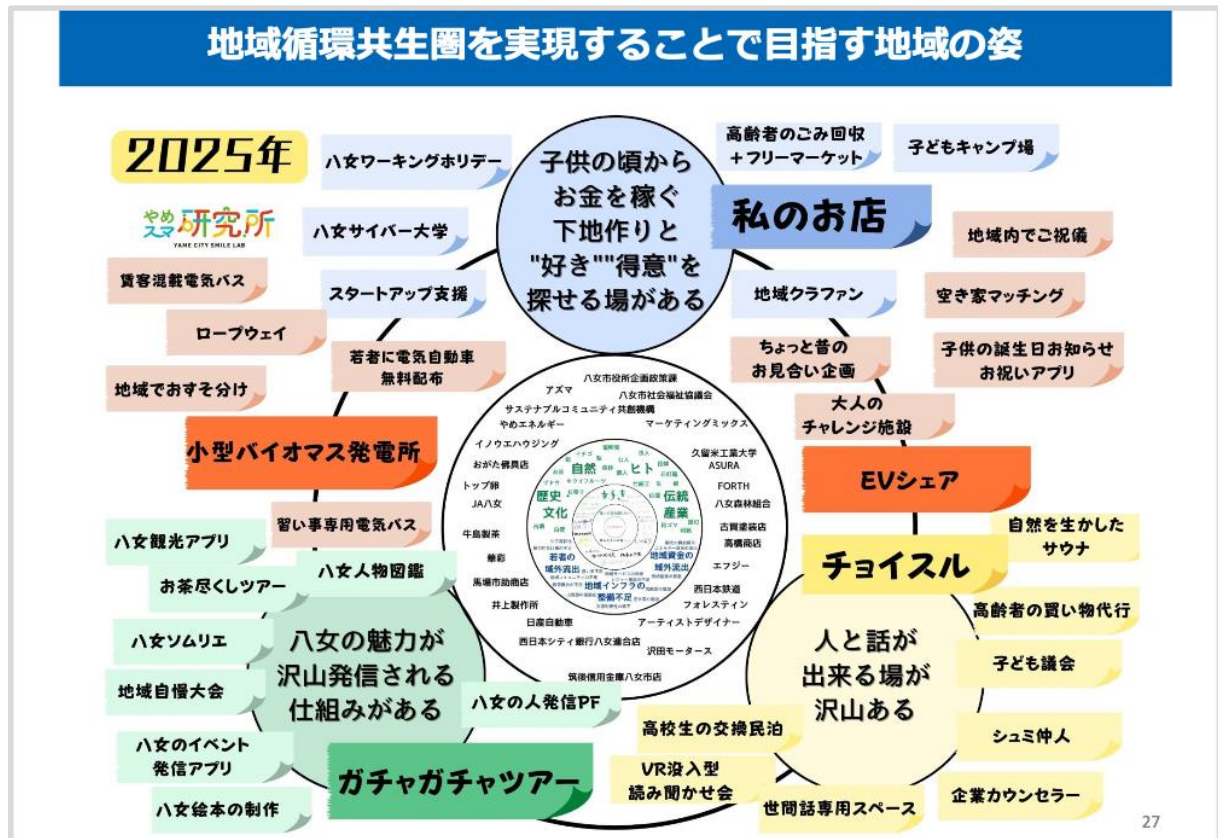


計9回のワークショップによる、アウトプット

また、ステークホルダーミーティングも計6回開催しました。ステークホルダーミーティングとは、八女に住む・関わる産学官民の方々が集まり、八女の未来について話し合う場です。地元企業・行政が一体となり、課題と課題解決のアイデアを出し合い、初年度のマンダラ<sup>1</sup>を完成させました。

<sup>1</sup> マンダラ・・・地域づくりに取り組む人たち（特にコアメンバー）との間で共有され、地域プラットフォームづくりや事業づくりを検討する際の道標になるもの。決まった形はないが、地域ビジョン・（地域ビジョンに対する）問題 / 地域資源・（地域資源を活用し、地域課題を解決するための）取り組み内容 / 成果 が含まれていることが多い

今思い返すと、1年目はこうした活動がどのように地域の未来につながっていくのか、まだ見えていなかったように思います。一方で、地域ビジョンやマンダラを整理していく過程の中で、地域でつながることの大切さを実感し始めていました。



1年目の八女市のマンダラ

## 地域外の人から刺激を受け、地域内でさらに対話を重ねることで進化した、2年目のマンダラ

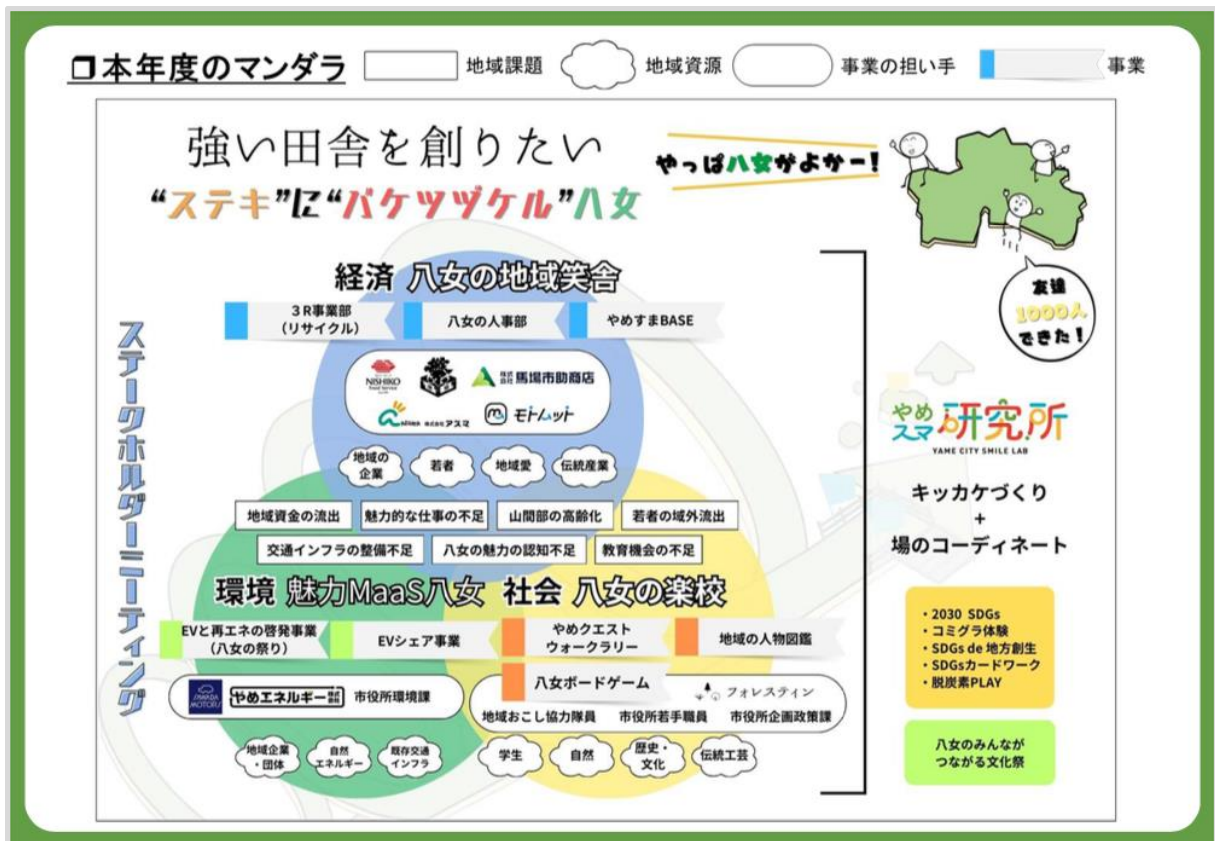
2年目は、「ステキにバケツヅケル八女」をテーマに活動を進めました。マンダラを活用して地域の課題を整理し、経済・社会・環境に良い解決策を模索していました。

実は、どう進めるべきなのかステークホルダーの中で意見がぶつかり、活動が止まったタイミングがありました。

この時に来てお話しをさせていただいたのが、ななおSDGsスイッチの<sup>2</sup>入口さんです。入口さんのお話しをきっかけに、また活動を前向きに進めることができるようになり、地域外の人々の力を借りることの重要性を感じるきっかけにもなりました。

<sup>2</sup> ななおSDGsスイッチの入口さんによる、『地域が盛り上がり、協働する仲間が増える「対話の場」のつくり方』講演レポート（2023年度 環境省ローカルSDGs 地域循環共生圏セミナー第2回）  
[https://chiiki.junkan.env.go.jp/assets/pdf/tsukuru/seminar/2023/seminar\\_02\\_report.pdf](https://chiiki.junkan.env.go.jp/assets/pdf/tsukuru/seminar/2023/seminar_02_report.pdf)

これが、2年目のマンダラです。1年目から、だいぶイメージが変わっているのではないかと思います。前提にある「強い田舎を創りたい」という思いは変わっていないものの、1年目と比較して地域の企業やリソースが整理されているのではないかなと思います。こうした内容も整理することで、具体的な事業をつくっていく動きがしやすくなりました。



2年目の八女市のマンダラ

## 地域プラットフォーム「やめスマ研究所」がきっかけになり生まれた、地域活動

宮崎：ここからは、やめスマ研究所がきっかけになって生まれた地域の活動をいくつかご紹介していきます。

### 八女の楽校

「八女の学校」は、地域みんなが先生にも生徒にもなることができる学校です。八女のごとが大好きな移住者の方のアイデアが元になって生まれた場です。週1回のオンライン勉強会が、これまで35回ほど開催されています。

## 環境チーム 魅力MaaSやめ

環境チームの取り組みとして象徴的なのは、八女のまつりでの取り組みです。八女に降り注ぐ太陽光で発電した再エネ100%電力を充電した電気自動車から電気を取り出し、出店の電源や大提灯の灯として利用をしました。

子供たちが集まって電気自動車を眺めている場面もあり、未来につながっていく取り組みになったと思っています。



八女のまつりでの環境チームの取り組みの様子

## 地域笑舎やめの設立

地域笑舎やめ は、地域企業の抱える問題・課題を地域ぐるみで解決するための地域内企業連携コミュニティです。

地元の酒蔵と連携して大人の社会科見学を開催したり、若手後継者育成プログラム「八女アトツギ経営塾」をスタートさせたりしています。

## まずは一歩踏み出すことから、ワクワクが生まれる

宮崎：新しいことを始めようとした時に、足踏みをしてしまうことはあると思います。僕もそうでしたし、いまだに足踏みをしてしまうことはあります。

ですが、まずは一歩踏み出して主体的に関わり始めることで変化することはたくさんあると思います。地域ビジョンやマンダラづくりを通して、自分や関係者のみなさんの頭の中が整理されることが沢山ありました。

みなさんがもし、これからマンダラづくりに取り組むのであれば、わかりやすく、自分の言葉で人に説明できるようなものをつくることにチャレンジしていただければと思います。

ご静聴、ありがとうございました！